

なし新品種「あきづき」の特性

1. 試験のねらい

本県のなし栽培では、「幸水」と「豊水」の2品種で栽培面積の約90%を占め、労力の集中化や価格変動に弱い体質が問題になっている。これを改善し、経営の安定を図るため、本県で育成した「にっこり」を推進している。しかし、さらに経営安定のためには「豊水」と「にっこり」の間に成熟する品質の良い晩生種が望まれている。そこで、この時期に収穫される「あきづき」の特性を明らかにした。

2. 育成の経過および来歴

なしの新品種「あきづき」は農林水産省果樹試験場において、「169-29（新高×豊水）」に「幸水」を交配して育成された品種で、平成10年8月に命名登録された。

当場では平成4年から「ナシ筑波47号」の系統名で導入し、試作検討を行った。

3. 特性の概要

- (1) 樹勢はやや強く、枝の発生は中程度で、短果枝、えき花芽とも着生は少ない（表-1、2）。
- (2) 開花期は「幸水」とほぼ同時期で（表-1、2）、花粉量が多い。自家不和合性である。
- (3) 収穫期は「豊水」と「新高」の間の9月下旬から10月上旬で、収穫始めは「豊水」の収穫終りと、収穫盛りは「新高」の収穫始めと重なる（表-1、2）。果皮色は黄赤褐色の赤なしで、有てい果の発生が多い。
- (4) 平均果重は500g以上となり、果形は扁円形で揃いが良く、変形果は少ない。糖度は「新高」並の12.3%で、酸味が少なく、硬度は4.4ポンドと「幸水」並に軟らかく、食味が良い。収量は「豊水」より多い（表-3、4）。
- (5) 裂果、芯腐れ、みつ症等の生理障害はほとんど発生せず、収穫前の落果や軸折れ果の発生もほとんどみられない。
- (6) 黒斑病に対して抵抗性であり、その他の病害虫については通常の赤なしの防除体系で対応できる。

4. 栽培上の留意点

- (1) 花芽の着生が少ないので、予備枝の利用や新梢の誘引など、花芽確保対策が必要である。

5. 成果の要約

なしの新品種「あきづき」は、9月下旬から10月上旬に収穫される晩生種で、平均果重500g以上の大果で、食味が良い。

(担当者 果樹部 半田睦夫)

表-1 「あきづき」の生育特性

年次	樹齡	樹勢	新梢の 発生	短果枝 着生	えき花 芽着生	開花期 月. 日			収穫期 月. 日		
						始	盛	終	始	盛	終
平成7年	4	中	中	やや多	少	4.26	4.28	5.1	9.22	9.30	10.6
平成8年	5	中	中	少	少	4.30	5.2	5.5	10.1	10.4	10.7
平成9年	6	やや強	やや多	少	少	4.18	4.21	4.28	9.22	9.26	10.3
平成10年	7	やや強	やや少	少	少	4.18	4.21	4.23	9.18	9.30	10.9

表-2 「幸水」、「豊水」および「新高」との生育特性比較

品種名	樹勢	新梢の 発生	短果枝 着生	えき花 芽着生	開花期 月. 日			収穫期 月. 日		
					始	盛	終	始	盛	終
あきづき	やや強	中	やや少	少	4.23	4.28	4.29	9.23	9.30	10.6
幸水	中	多	少	少	4.23	4.25	4.30	8.23	8.30	9.6
豊水	やや強	多	やや多	中	4.21	4.22	4.26	9.16	9.20	9.25
新高	やや弱	少	多	やや多	4.18	4.21	4.25	10.2	10.9	10.15

注. 平成7~10年の平均値。

表-3 「あきづき」の果実品質

年次	樹齡	果重	硬度	糖度	酸度	収量
		g	lbs	brix%	pH	kg
平成7年	4	341	4.5	11.8	4.95	1.4
平成8年	5	504	4.3	12.6	4.86	5.0
平成9年	6	527	4.4	12.2	4.87	13.7
平成10年	7	541	4.4	12.2	4.87	36.7

表-4 「幸水」、「豊水」および「新高」との果実品質比較

品種名	果重	硬度	糖度	酸度	収量
	g	lbs	brix%	pH	kg
あきづき	524	4.4	12.3	4.87	55.4
幸水	305	4.5	12.4	5.19	55.5
豊水	401	3.9	12.5	4.64	42.8
新高	634	5.4	12.3	4.55	78.0

注. 平成8~10年の平均値。収量は平成8~10年の累積。